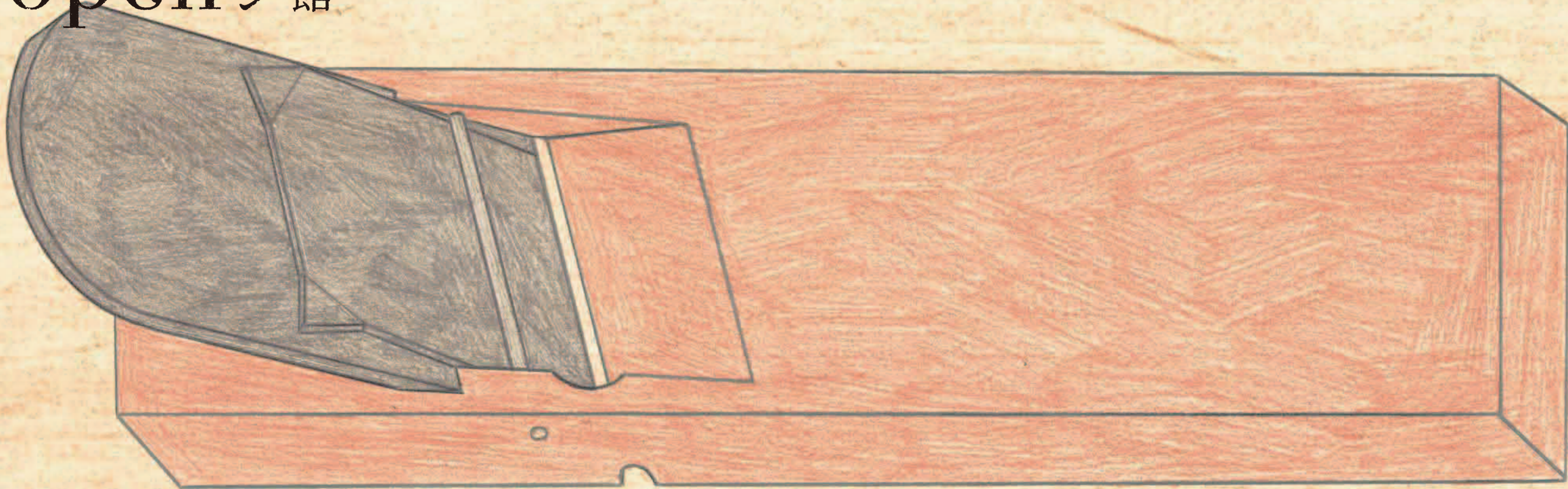


2014
10/4
sat
open

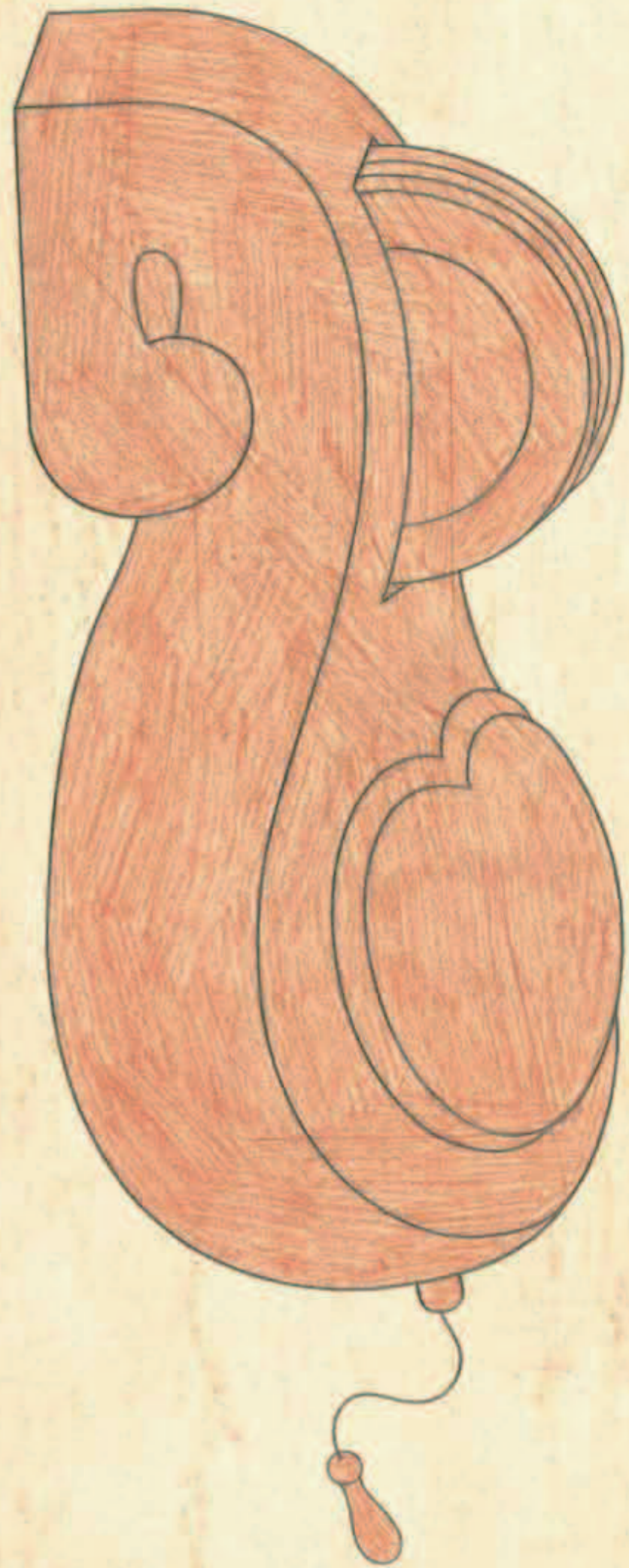
竹中大工道具館
新館、オープン



鉋

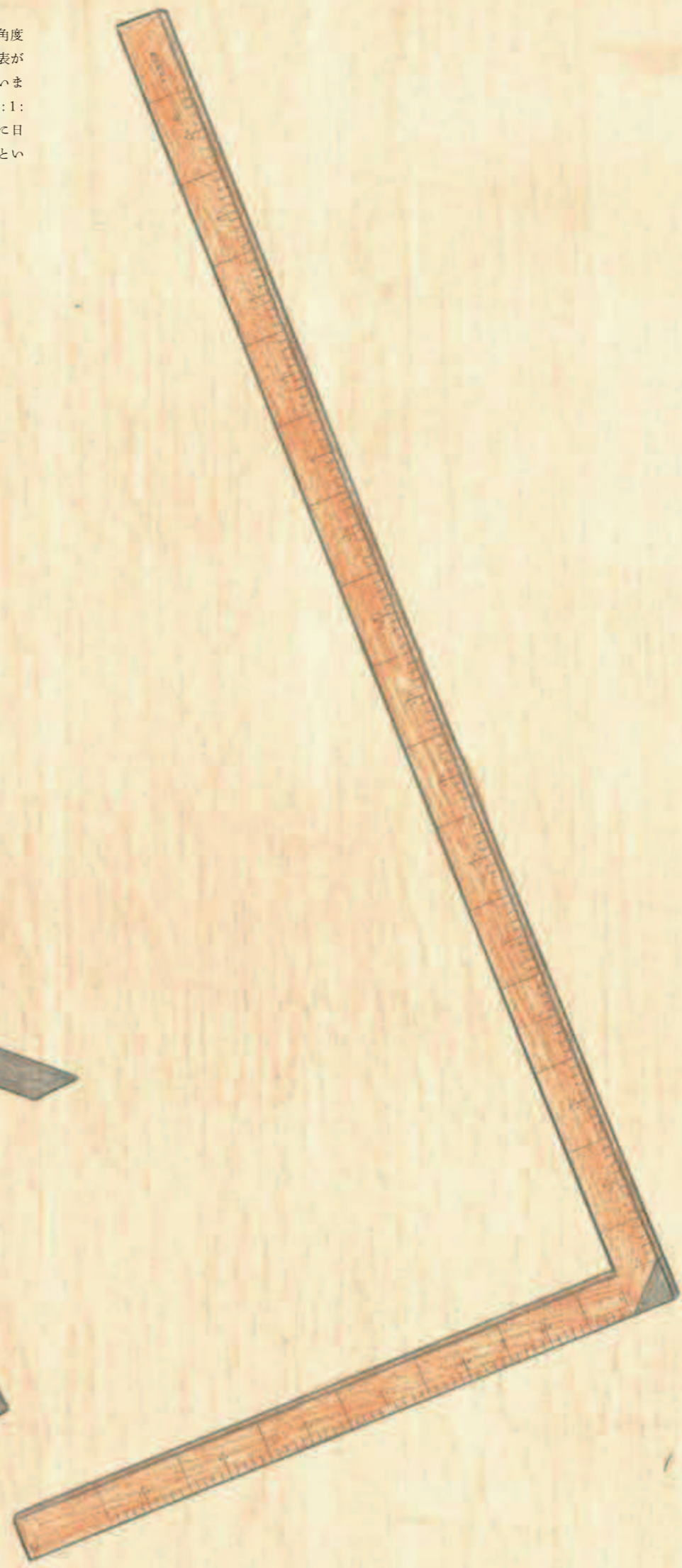
KANNA

たいせつなことは、
大工と道具が
教えてくれる。



【墨壺(すみつぼ)】長い直線を正確に引く道具。日本の道具の中で唯一、彫刻が施された遊び心のある道具です。これは大工さんが雨で仕事がお休みの日などに、彫刻の練習も兼ねて自ら彫っていたそうです。

墨壺
SUMITSUBO



【曲尺(さしがね)】長さや角度を測る道具。日本の曲尺は表が尺、裏が表の√2になっていますが、ピタゴラスの定理1:1:√2が伝わる以前に、すでに日本の大工さんは知っていたということですね。

曲尺
SASHIGANE



【鋸(のこぎり)】木を切断して製材する道具。日本の鋸は「引いて」、海外の鋸は「押して」使います。ちなみに大きい鋸と書いて大鋸(おが)と読み、「おがくず」という言葉はこの大鋸の屑からきているんです。

鋸
NOKOGIRI

——日本の道具はおもしろい。その魅力を、より深くわかりやすく。 生まれ変わった竹中大工道具館。2014年10月4日、新神戸駅前に新館オープン。

「竹中大工道具館」は、日本唯一の大工道具の博物館として1984年、神戸市中山手に開館。以来約30年、多くの方々に親しまれてきました。そして2014年秋。大工道具の世界をより深く、より楽しく体感していただくために、新神戸駅近くの竹中工務店ゆかりの地へと移転して、新たな一步を踏み出すこととなりました。

六甲山の麓の緑豊かなロケーションに、地上1階、地下2階、周囲の自然と融和する和風屋根。建物の内装には木工や左官、瓦師など職人たちの技を取り入れ、日本が誇る伝統の技と心を見ていただけるよう心を配りました。また同時に、限界の細さを追求した鉄骨構造や木造で構築する大空間ホールなど、最先端の建築技術にも挑戦。博物館そのものが「匠の技の数々を肌で感じていただける場」となっています。

より多くの人に、道具との新しい出会いの場を・・・という想いから、映像、音声システム、実際に触れることのできるハンズオン展示など「五感に響く」展示を大幅に増設。道具を身近なものとして楽しく理解を深めていただけるように

工夫しました。展示の目玉は、高さ7mを超える「唐招提寺金堂組物」の実物大模型。そのほか茶室構造模型や鍛冶工房の再現など、他では見られない展示品を多数ご用意しています。

そして、なんといってもユニークなのは、ここが「宮大工がいる博物館」であること。最大40名が利用できる木工室を新設し、初めて大工道具に触れる子どもから、手仕事に興味のある大人まで、匠の指導のもとにみんなが楽しめるプログラムをご用意。道具への愛情のつまった、開かれたミュージアムとして、よりいっそう親しんでいただける場をめざしています。

- 開館時間＝9:30～16:30(入場は16:00まで)
- 休館日＝月曜日(祝日の場合は翌日) 年始年末
- 入館料＝一般500円/大・高生300円/小・中生無料/65歳以上200円
- 住所＝〒651-0056 兵庫県神戸市中央区熊内町7-5-1
TEL：078-242-0216 / FAX：078-241-4713 HP=<http://dougukan.jp>

大工と道具の世界は、知れば知るほど豊かで味わい深い世界です。なにごとにも便利になった今だからこそ、優れた道具に込められたメッセージに思いを馳せ、知恵や技に触れてみませんか？ ものづくりの国に生きる楽しさ、素晴らしい。新しい気づきに満ちた道具との出会いが、きっとあなたを待っています。

大工と道具の世界は、知れば知るほど豊かで味わい深い世界です。なにごとにも便利になった今だからこそ、優れた道具に込められたメッセージに思いを馳せ、知恵や技に触れてみませんか？ ものづくりの国に生きる楽しさ、素晴らしい。新しい気づきに満ちた道具との出会いが、きっとあなたを待っています。

「きちょうめん」「相づちを打つ」「クギを刺す」「うだつが上がらない」「ろくでなし」・・・私たちが日頃よく使う言葉には昔から、大工や建築に関わる職人の間で用いられた言い回しに由来するものがたくさんあること、ご存知でしたか？

また、鋸、鉋、鉋、鉋、鉋・・・など「金偏」のつく道具を表す漢字の多さにも、この国の大工道具の歴史を感じます。古典落語の世界においては、町人や職人がたくさん登場しますが、職人の中でもいちばん多く登場するのが大工です。そして大工の身体の一部である大工道具は、今よりももっと身近なものでした。

日本はものづくりの国です。鋸で挽いたり、鉋で削ったり。大工の手仕事には木を美しく仕上げ、仕事を正確に納めるための、日本ならではの心遣いがあふれています。

その手仕事を支え続けているのが、数々の大工道具たち。優れた鍛冶と共に自分の身体や好みに適した道具をこしらえ、使い込んでいく。そんな苦勞や誇りが、限りなく繊細な形と機能を持つ道具を育て、支えてきました。だからこそ日本の大工道具は「道具の王者」といわれ、今も私たちにものづくりの技と心を教えてくれるのです。

大工と道具の世界は、知れば知るほど豊かで味わい深い世界です。なにごとにも便利になった今だからこそ、優れた道具に込められたメッセージに思いを馳せ、知恵や技に触れてみませんか？ ものづくりの国に生きる楽しさ、素晴らしい。新しい気づきに満ちた道具との出会いが、きっとあなたを待っています。